



国際ロータリー第 2840 地区 2025～2026 年度

MAEBASHI HIGASHI ROTARY CLUB

クラブ会報



会長 川嶋 潤 幹事 鈴木 みづえ 会報・公共イメージ委員長 田嶋 景姫 編集者 田嶋 景姫
 事務局／〒371-0847 前橋市大友町1丁目2番11号ロイヤルチェスター前橋内 TEL. 027-252-7907 FAX. 027-252-7926
 E-mail maebashi-higashi@rid2840.jp URL <http://www.rid2840.jp/maebashi-higashi> (10時～16時 休日 毎週火曜日)

2026年 3月 12日 (木) 第2258回 例会報告

点 鐘 川嶋 潤 会長
 ローターソング それでこそロータリー

会長の時間 川嶋 潤 会長



皆様こんにちは。ここ数回素晴らしい会員卓話をお聴きし、少し触発されておる今日この頃です。私も久しぶりに自己開示の時間をいただければと思いついてまいりましたので聴いてください。

川嶋潤。1980年4月30日生まれ。45歳。家族構成は妻1人、高校2年と中学2年の息子、ポメラニアンの子がいます。

高校卒業後、成城大学へ進学、学業には励まず、野球とバイト、麻雀、パチンコ、飲み会と、寝る間も惜しんで一生懸命遊んでおりました。あれは忘れもしない24年前の今日、3月12日卒業発表の日です。野球も現役引退しておりましたので、いつものように朝から行きつけのパチンコ屋でスロットを打っておりました。昼に卒業発表を見に行くと、なんと私の学籍番号が見当たらない…。急いで教務課に駆け込むと、『『民法Ⅲ』の単位が取れてないようです。』と…。「再テストもレポートも受け付けない教授だからどうしようもないです。」と言われ、頭の中が真っ白になりました。就職は決まってる、住んでいたアパートも引き払う手続き済んでる、親に何て話そうか。何も考えがまとまらないまま、どうしたか…。またパチンコ屋に戻りました。そんなに日に限って閉店まで出っ放し、勝ったお金で友達みんなと高級焼肉に行ったのを覚えています。

そんな私が1年後、ダイワハウスに入社するわけですが、実は内定を頂いていたのもダイワハウスでした。「卒業することができませんでした。大変申し訳ありません。」とダイワハウスの東京本社へ謝罪に行きました。その時に対応して下さったのが、当時の人事部の濱さんという課長さんでした。どんな罵詈雑言を並べられても仕方ないと覚悟を決めていきましたが、返ってきた言葉は正反対のものでした。その言葉は今でも忘れません。相当長い沈黙の後「ほんとに残念だよ。準備をして待っていたんだけど。もしダイワハウスを選んでもらえるなら、もう一度入社試験を受けなおしてくれないか。」と。人生でおそらく一番緊張していたと思いますがその言葉で一気に緊張が解け、安堵とうれしさで号泣してしまいました。余談ですが、濱課長は数年後にグループ会社の社長となりご勇退をされました。

さて、入社後の私はどうだったかというと、1年目同期150名の中で10名だけが表彰される優秀新人賞を受賞、濱課長に恥をかかせるわけにはいかないと必死に頑張ったことを覚えています。2年目も順調に仕事を続けておりました。3年目になったある日4月の中頃だったかと思いますが、上司から「支店長が呼んでるよ」と声をかけられました。どう考えても悪いことはしていないし、毎晩のように飲み歩いてはいましたが仕事はちゃんとしているし、思い当たることは何もありません。緊張しながら支店長室へ。「仕事はどうだ？楽しいか？」と当たり障りのない会話から、突然「1年東京へ行ってこい！」と。「はい？」わけもわからない私に支店長が続けます。「来年参議院選挙があるから東京の選挙事務所に1年行ってこい」というのです。もう頭の中はパニックです。「どうして自分なんですか？」と尋ねると、「覚えてるだろ俺の前で打ったの。」実はその前の週、協力業者さんをご招待してのコンペがあったのですが、その支店長は4月から赴任したばかり、たまたま前の組を回っていた私がティーショットでグリーンオーバーの

2026/3/12

ショットを打ってしまっていたのです。支店長は大学のゴルフ部出身、バリバリの体育会系、後で聞いた話ですが、選挙のための人事で2年間限定の配置だったようです。群馬から人を出すことは決まっていたたまたま私が目に留まってしまったようです。それからの2週間はもう大変です。支店長者に乗せられ東京本社で役員と面談させられたり・誰とは言いませんが上野先生の事務所へ行ったり、2週間もたたないうちに本社がマンションを手配してくれ引っ越し、GW明けにはもう選挙事務所の職員となっていました。それからの1年はもう毎日が戦争のようでした。平日5日間のうち多いと4日、最低2日は地方へ行き、47都道府県のほぼすべてに同行しました。各地方でどれだけのおいたしたかは当時付き合っていた妻には口が裂けても言えません。選挙の2か月前には秘書さんが結核で入院してしまい、1週間の予定、移動手段の確保・予約をしながら、地方へ飛んでいました。

結果は皆様ご存じの通り落選となりました。落選の翌日です。事務所の片づけをしているとエレベーターからやくざのような風貌の3人組が下りてきて、事務所へ入って行きました。怖いので事務所に戻らずにいると数分して秘書さんが連れていかれました。ある程度分かってはいたのですが、文書違反で秘書さん丸2日拘留。応援してくれていた支援者はみんな離れていきました。ですから私は投票には行くけれども、2度と選挙にはかかわらない。と心に決めております。

本当に楽しくて、でも最後はほんとに辛くて苦しくて悲しくて、人間不信になった1年でした。が、2つ感謝していることがあります。1つは予定を立てること、段取り・根回しが本当に大切なことが分かったこと、もう1つは今の妻と結婚し、かわいい息子ができたこと。実は選挙に行く前にプロポーズをしました。当時どうしようもない遊び人でしたから、きっと他の子に目移りするだろうとわかっていましたので、選挙が終わって戻ってきたら結婚しよう決めて東京へ旅立ちました。2回目になりますが、各地方でどれだけおいたしたかは墓場まで持っていきたいと思っています。

自分の半生を振り返ってみて思うことは、私は自分のためには頑張れないということです。私は誰かのため、誰かの期待に応えたい、恥かかせちゃいけないとか他人のためであれば頑張れる人間なんだということがわかりました。今は誰とは言いませんが、あの人のために、恩返しするために頑張りたいと思います。まだまだ私のどうしようもない人生エピソードはたくさんあるのですが、機会があればお話ししたいと思います。ご清聴ありがとうございました。

幹事報告 鈴木 みづえ 幹事



みなさん、こんにちは(*^^*) みづえ幹事の幹事報告です。

- 1) 来週木曜の例会は休会になります。20日(金)のあすなろ祭が例会扱いとなりますので、お間違いのないようにお願いします。
- 2) 前橋中央RC、前橋市長の講師例会受付は、3月15日まででございます。お申込みの方は事務局までご連絡よろしくお願いします。

以上、幹事報告でした。ありがとうございました。

出席報告

	会員数	休会者	出席者	欠席者	補填者	率
本日	51(50)	1	25(4)	26		52.08%
前々回	51(50)	1	29(4)	22	7	75.00%

※特別会員A(補欠法人会員)出席者 0名・特別会員B 出席者 0名

◆2月度平均出席率・・・71.81%

部会報告

ゴルフ部会 釘島 伸博 部会長



3月26日に予定しておりました第5回自クラブコンペは、都合により4月2日へ変更することとなりました。

現在、すでに7名ほどのお申し込みをいただいておりますが、ぜひ多くの皆様にご参加いただければと思います。

楽しいコンペにしたいと考えておりますので、どうぞお気軽にお申し込みください。よろしく願いいたします。



川嶋会長・鈴木幹事:山荷さん、今日は宜しくお願いします。

足立 進パストガバナー:山荷さんの卓話、待っていました。楽しみです。

釘島伸博会長エレクト:山荷会員の卓話に感謝して!!

内山 均 さん:山荷さんの卓話を楽しみにしています。

大本計馬さん:山荷さん、卓話楽しみにしています。

小山京子さん:山荷さんの卓話を楽しみにしています。

高木清成さん:山荷さん、頑張ってください。

吉井幸広さん:山荷さん!前橋東ロータリーのトップ目指してがんばってください。

新入会員卓話

◆山荷 賢 会員



皆さま、こんにちは。株式会社スムーズ建築設計事務所の山荷 賢です。入会して間もない中、このような貴重な機会をいただき、誠にありがとうございます。本日は、これまでの歩みについて少しお話しさせていただきます。

私は進学を機に、この前橋市に参りました。前橋工業短期大学、現在の前橋工科大学の前身にあたる学校です。当時は夜間部だけの短期大学でした。

昼は設計事務所で働き、夜は学校へ通う生活。「働きながら学ぶ」という言葉は前向きに聞こえますが実際は決して楽なものではありませんでした。朝から図面を描き、夕方になると学校へ向かう。授業中は常に眠気との戦いでした。しかし周囲を見渡すと、皆同じような状況で努力していました。それが当たり前の環境であったからこそ、私も自然と踏ん張ることができたのだと思います。

当時の図面はすべて手書きでした。一本の線を引くにも神経を使い、間違えれば消して描き直す。効率は決して良いとは言えませんが、「線の意味」や「責任の重さ」は、あの時代に学んだように思います。そして今振り返ると— 娘たちは、迷うことなく全日制の大学へ進学させました。

就職後も、決して楽な環境ではありませんでした。定時は夜10時。遅い日は夜中の2時になることもあり。朝帰宅すると新聞が玄関に差し込まれている。夏は朝日がまぶしく、冬は凍える寒さ。生活のリズムは完全に崩れていました。友人から「最近何をしているのか」と聞かれても、「働いているか、寝ているか、そのどちらかです」と答えるしかありませんでした。それでも辞めなかったのは、設計という仕事が嫌いではなかったからだと思います。

設計業界には大きな壁があります。一級建築士の資格試験です。難易度の高さに加え、取得までに時間と労力を要する資格として知られています。業界では「一級建築士は足の裏についた米粒だ」と例えられることがあります。“取っても食えない、取らないと気になる”という意味です。

当時の手取りは約15万円。ボーナスもありません。その中から予備校の授業料を支払うのは正直厳しいものでした。しかし、経済的な理由以上に「一人前になりたい」という思いが勝っていました。

仕事の合間、そして休日は勉強に充てる日々。そして— 幸いにも合格することができました。心から安堵したことを覚えています。「これで少しは生活も安定するだろうか」 そう思った矢先、社長が突然他界しました。

会社は急速に不安定となり、27歳で独立することになります。計画的な独立ではありませんでした。むしろ「放り出された」という表現の方が近いかもしれません。仕事も人脈も十分とは言えない状況。将来への不安は大きなものでした。しかしそのような中で、仕事を依頼してくださる方、励ましてくださる先輩方、そして何より信じてくれた妻と家族の存在がありました。

多くの方々の支えがあってこそ、今があります。振り返れば、自分の力だけではなく、ご縁に恵まれてここまで歩んできたのだと感じています。

私の趣味は登山です。毎年夏には北アルプスを縦走します。剣岳、白馬岳、槍ヶ岳、雲ノ平— 美しい山々を歩いてきました。およそ15キロの装備を背負って登ります。最も重いのは、黒霧島という大切な“水分補給”です。

登山者同士の挨拶で、私の好きな言葉があります。「またどこかの山で会いましょう。」

一期一会を大切に、温かい言葉です。

登りは本当に苦しいものです。「なぜ来たのだろうか」と思うこともあります。それでも歩き続け、テントで休み、また歩く。下山すると、なぜかまた登りたくなるのです。

